

---

---

# 日本地球化学会ニュース

No .161

2000 .5 .10

---

---

## 主な記事

### ● 学会記事

- 2000年度日本地球化学会年会のお知らせ ( )
- Geochemical Journal からののお知らせ
- 評議員会, 各委員会, 研連議事録
- 三宅賞の推薦依頼
- 日産学術助成 (学会推薦)
- 鳥居基金

### ● その他の研究助成, 学会, シンポジウム等の各種情報のお知らせ

### ● シンポジウム, 講演会など

現在, 日本地球化学会のホームページを学術情報センターのホームページ内の Academic Society Home Village の中で公開しております。URL アドレスは,  
<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/gsj2/index.html>

です (Yahoo! JAPAN にも登録しております)。

人事公募やシンポジウムのご案内などは随時更新しています。ご覧の上, ご意見, ご要望をお寄せください。みなさまのご協力で, より魅力的でアップデートなものにしていきたいと思っています。

## 2000年度日本地球化学会年会のお知らせ(II)

主催：日本地球化学会

共催：日本化学会

後援・協力：山形コンベンションビューロー

会期：2000年9月25日(月)～9月27日(水)

会場：山形大学教養教育棟  
(山形県山形市小白川町1 4 12)

内容：一般講演(15分)

ポスターセッション(180cm×90cm)

課題討論(各課題のコンピーナー、連絡先、概要等は以下の通りです。)

### 課題討論(1)

課題名：海洋と地球 海洋化学と地球環境研究の今後  
(その2)

概要：海洋はいうまでもなく地球環境に重大な影響を与える決定要因である。必ずしも明るいだけではない人類の未来にとって、海洋科学研究が担う役割は重くなり続けると予測される。一方で、細分化され過ぎた現在の海洋化学だけでは、社会的要請に答えきれない課題も増えるであろう。そのことに対処するために、学際的連携はこれまで以上に重要になるであろう。周辺分野との共同作業のあり方をも視野に入れて、21世紀の海洋化学の展望を話しあいたい。

コンピーナー：

益田晴恵(大阪市立大学理学部)

Tel: 06 6605 2591, Fax: 06 6605 2522,

E-mail: harue@sci.osaka-cu.ac.jp

川幡穂高(地質調査所海洋地質部)

Tel: 0298 54 3765, Fax: 0298 54 3765,

E-mail: kawahata@gsj.go.jp

柳澤文孝(山形大学理学部)

Tel: 023 628 4648, Fax: 023 628 4661,

E-mail: yanagi@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

講演について：招待講演のみ・原則1講演20分

### 課題討論(2)

課題名：風送ダストの地球化学

概要：大陸の乾燥地帯から風によって大気中に舞い上がり大気上層部にまで到達した風送ダストは、大気上層の風によって東アジアから太平洋にまで広範囲に長距離輸送され、地球環境に大きな影響を与えている。風送ダストによる地球環境への影響を正しく評価する

ためには、風送ダストの実態把握が急務である。本課題講演では、風送ダストの地球化学的側面についてこれまでに得られているデータを整理することによって共通した認識を確立すると共に、今後の研究の方向について話し合いたい。

コンピーナー：

金井 豊(地質調査所地殻化学部)

Tel: 0298 61 3723, Fax: 0298 61 3566,

E-mail: kanai@gsj.go.jp

上岡 晃(地質調査所地殻化学部)

Tel: 0298 61 3556, Fax: 0298 61 3533,

E-mail: kamioka@gsj.go.jp

柳澤文孝(山形大学理学部)

Tel: 023 628 4648, Fax: 023 628 4661,

E-mail: yanagi@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

講演について：招待講演のみ・原則1講演20分

### 課題討論(3)

課題名：日本列島における初期人類文化の年代とその背景解明への理化学的アプローチ

概要：1980年代以来、宮城県や山形県をはじめとする東北地方を中心として、それまでの日本考古学の常識をくつがえすような古い人類の生活の痕跡が相次いで発見されている。最近では、ついに、関東地方秩父盆地における発掘調査で、住居址の可能性が高い遺構までも発見された。このような研究は、単に日本列島における初期人類文化の年代を遡らせるだけでなく、当時の人々の認識能力の高さに関する再評価の必要性を世界中に強く訴えかけている。東北地方を中心とした研究では、年代測定をはじめとして、さまざまな理化学的手法が用いられ、日本列島に生きた原人の生活様式や当時の環境を復元する試みが行われている。本課題講演では、最近の研究成果を総括するとともに、その研究手法について検討し、新しい地球化学的アプローチ手法の開発の可能性について議論したい。

コンピーナー：

豊田 新(岡山理科大学理学部)

Tel: 086 256 9608, Fax: 086 255 7700,

E-mail: toyoda@dap.ous.ac.jp

早田 勉(古環境研究所)

Tel: 027 251 0709, Fax: 027 253 8171,

E-mail: soda@muc.biglobe.ne.jp

齋藤和男(山形大学理学部)

Tel: 023 628 4649, Fax: 023 628 4661,

E-mail : kazsan@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

講演について：招待講演 3 ~ 4 件，一般講演 5 ~ 6 件  
・原則 1 講演20分

#### 課題討論(4)

課題名：21世紀に渡す地球化学の課題

概要：地球化学の各分野から講演者を依頼し，その分野の現状，今後の展望を講演していただく。

コンピナー：

松久幸敬（地質調査所）

Tel : 0298 61 3688 , Fax : 0298 61 3748 ,

E-mail mats@gsj.go.jp

野津憲治（東京大学大学院理学系研究科付属地殻化学実験施設）

Tel : 03 5841 4624 , Fax : 03 5841 4119 ,

E-mail : notsu@eqchem.s.u-tokyo.ac.jp

齋藤和男（山形大学理学部）

Tel : 023 628 4649 , Fax : 023 628 4661 ,

E-mail : kazsan@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

講演について：招待講演のみ・原則 1 講演30分

\* 十分な討論時間を確保するため，一般講演・課題討論を通じて口頭発表は 1 演者 1 件に限らせていただきます。2 件目の発表からはポスターセッションでお願いいたします。ただし，課題討論の招待講演はこの限りではありません。

\* 口頭発表は原則として OHP 1 台の使用とします。

講演申込期限 6月30日(金) (必着)

講演申込み方法

#### 1) 郵送による受付

本号のニュース添付の申込用紙またはそのコピーをご利用下さい。封筒には講演申込在中と朱書して下さい。なお，遅延，郵送中の紛失等の責任は負いかねますので，送付方法には充分にご留意下さい。

〒990 8560 山形県山形市小白川町1 4 12

山形大学理学部地球環境学科 柳澤文孝

#### 2) 電子メールによる受付

下記の電子メールアドレスまで講演申込の書式をご請求下さい。電子メールで書式をお送りいたします。必要事項を全て記入のうえ下記の電子メールアドレスまで送信してください。なお，誤送信等の責任は負いかねますので送信には充分にご留意下さい。

E-mail : yamagata2@tokyu-tour.co.jp

#### 3) ホームページ上からの受付

ホームページ ( <http://tour.tokyu.com/chikyukagaku/> ) の所定の書式に従って送信して下さい。なお，ホームページの開設は6月初旬を予定していません。

講演要旨締切 7月28日(金) (必着)

#### 1) 郵送による受付

本号ニュース添付の「講演要旨作成上の注意」に従って作成して下記宛にお送り下さい。封筒には講演要旨在中と朱書して下さい。なお，遅延，郵送中の紛失等の責任は負いかねますので，送付方法には充分にご留意下さい。

〒990 8560 山形県山形市小白川町1 4 12

山形大学理学部地球環境学科 柳澤文孝

#### 2) PDF ファイルによる受付

Adobe Acrobat によって作成した PDF ファイルを下記宛に電子メールの添付ファイルとしてお送り下さい。なお，誤送信等の責任は負いかねますので送信には充分にご留意下さい。

E-mail : yanagi@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

総会：9月26日(火) 午後開催

懇親会：9月26日(火) 午後6時からオーヌマホテルにて開催予定

参加申込：( 予約正会員，要旨集予約，懇親会予約 )

締切：9月1日(金) (必着)

参加費：( 予約会員 1,000円，学生会員 無料，非会員 2,000円，予約外会員 2,000円 )

要旨集：予約 4,000円 (送料込)，予約外 5,000円

懇親会：予約 5,000円 / 学生 3,000円 / 予約外 6,000円

参加申込方法

#### 1) 郵送による受付

本号ニュース添付の要旨込み用紙またはそのコピーをご利用下さい。封筒には講演申込所在中と朱書して下さい。なお，遅延，郵送中の紛失等の責任は負いかねますので，送付方法には充分にご留意下さい。

〒990 8560 山形県山形市小白川町1 4 12

山形大学理学部地球環境学科 柳澤文孝

#### 2) 電子メールによる受付

下記の電子メールアドレスまで講演申込の書式を

ご請求下さい。電子メールで書式をお送りいたします。必要事項を全て記入のうえ下記のメールアドレスまで送信してください。なお、誤送信等の責任は負いかねますので送信には充分にご留意下さい。

E-mail : yamagata2@tokyu-tour.co.jp

### 3) ホームページ上からの受付

ホームページ (<http://tour.tokyu.com/chikyukagaku/>) の所定の書式に従って送信して下さい。なお、ホームページの開設は6月初旬を予定しています。

### 送金

参加費、要旨集代、懇親会費は9月1日(金)までに下記宛にご送金下さい。領収書等は東急観光(株)山形支店よりお送りいたします。

銀行口座：山形銀行山形駅前支店

普通口座 0799726

加入者名：東急観光(株)山形支店

### 宿泊の予約

東急観光(株)山形支店がお世話いたします。本号ニュースに添付の「2000年度日本地球化学会 宿泊ご案内」を参照のうえ、添付の申込書またはそのコピーを用いて9月1日(金)までに下記の東急観光(株)山形支店の相馬一または山口謙一までお申し込み下さい。

東急観光(株)山形支店 営業 相馬一または山口謙一  
住所：〒990 0039 山形県山形市香澄町1 11 22

Tel : 023 641 4141 (代表), Fax : 023 641 1019

### 年会連絡先

〒990 8560 山形県山形市小白川町1 4 12

山形大学理学部地球環境学科 齋藤和男

Tel : 023 628 4649(直通), Fax : 023 628 4661,

E-mail : kazsan@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

### または

〒990 8560 山形県山形市小白川町1 4 12

山形大学理学部地球環境学科 柳澤文孝

Tel : 023 628 4648(直通), Fax : 023 628 4661,

E-mail : yanagi@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

### 講演申込・参加申込の電子メールアドレス：

yamagata2@tokyu-tour.co.jp

講演申込・参加申込のホームページアドレス(6月初旬開設予定)：

<http://tour.tokyu.com/chikyukagaku/>

### 日本地球化学会公開講演会

講演会の題目：地球規模の環境問題

開催日：平成12年10月

開催地：山形市中央公民館(アズ七日町)大会議室

内容：近年の科学技術の発展と産業経済の拡大の結果、人間活動は大規模化して地球環境に加速度的な変貌をもたらし、人間の生活に大きな影響を与えるようになってきている。しかし、地球環境問題について総合的な理解のための情報が十分に提供されているとは言い難いのが現状である。本講演会では地球環境問題の現状と今後について平易にお話します。

### 連絡先：

〒990 8560 山形県山形市小白川町1 4 12

山形大学理学部地球環境学科 齋藤和男

Tel : 023 628 4649(直通), Fax : 023 628 4661,

E-mail : kazsan@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

### または

〒990 8560 山形県山形市小白川町1 4 12

山形大学理学部地球環境学科 柳澤文孝

Tel : 023 628 4648(直通), Fax : 023 628 4661,

E-mail : yanagi@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

(詳細は次号のニュースに掲載いたします。)

## Geochemical Journal からのお知らせ 全論文の web 上での公開と impact factor について

最近ではインターネットの発達などにより、情報のより広く速い配付・検索などが要求され、文部省などからも学術誌の国際化、電子出版化などが評価の基準の一つになってきました。Geochemical Journal では、インターネット上で、アブストラクトのみの公開をしていましたが、雑誌の発行後、半年後に全論文をも web 上で公開するということを決め、TERRAPUB との協力で今年から実施します(Geochemical Journal のホームページは、現在、“<http://psmac0.ess.sci.osaka-u.ac.jp/GJ/>”(大阪大学)と“<http://www.terrapub.co.jp/journals/GJ/>”(TERRAPUB)にありますが、後者で公開)。また、雑誌のCDROM版の作成なども検討しています。

このように雑誌の国際化、電子化が叫ばれています

が、なんといっても学術誌の評価は雑誌の impact factor にあるものと思われま。最近出た1998年度の“Journal Citation Reports”によれば、Geochemical Journal の impact factor は0.579でした。impact factor は Earth and Planetary Science Letters(2.815)、Geochimica et Cosmochimica Acta(2.666)と比べて、決して高い数とは言えないのですが、“Journal Citation Reports”にある Geochemistry and Geophysics のカテゴリーの雑誌40誌中の30位とそれなりにがんばっています。因みに、1997年度の Geochemical Journal の impact factor は0.351、Geochemistry and Geophysics のカテゴリーの雑誌での順位は43誌中39位でしたので、随分と上昇してきました。

編集委員会では、とりあえずの目標として、Geochemical Journal の impact factor を1以上にあげることを考えています。impact factor が1になると、かなり国際性の高い雑誌として世界的に認知されると思います。ジャーナルが良くなるためには、多くの論文が投稿され、多数の論文からふるいにかけられた良い論文が掲載されることが不可欠です。そうすれば、より多くの研究者からその論文が引用され、多くの研究者がそのジャーナルを見る必要があることから、ジャーナルのサーキュレーションはより広がっていきます。こうなると、プラスのフィードバックで、より多くの論文が投稿されるようになり、ますます引用回数も増えてジャーナルのサーキュレーションも良くなっていきます。このように多くの論文の投稿と引用回数の増大およびジャーナルのサーキュレーションの拡大は、相補的にジャーナルの質を向上させるはずで。そこで、皆様に Geochemical Journal への一層の論文投稿をお頼みする次第です。

また、同時に上記のようなプラスのフィードバック効果があることを考えると、そのきっかけをつくることも大事ではないかと思われま。すなわち、地球化学会の会員の方にできるだけ Geochemical Journal に掲載された論文を引用して論文を書くことを心掛けていただくというものです。Geochemical Journal は、日本地球化学会誌です。この雑誌が良くなれば、世界における日本の地球化学研究全体の評価が上がるものと期待されますし、良くするためには、日本地球化学会の皆様の協力が必要です。Geochemical Journal の論文引用を引き上げるきっかけとなるよう、なるべく Geochemical Journal に掲載された論文を引用して論文を発表するということは、大いに助けに

ります。皆様の一層の御協力をお願いするものです。

Geochemical Journal 編集長 松田准一

## 2000～2001年度評議員懇談会メモ

日時：1999年10月1日(金) 18時15分～19時00分

場所：地質調査所843会議室

出席者：松久幸敬次期会長、野津憲治次期副会長、石橋純一郎、海老原充、河村公隆、日下部実、坂田将、佐竹洋、田中剛、富樫茂子、中井俊一、野崎義行、野尻幸宏、乗木新一郎、増澤敏行、益田晴恵、松田准一、村江達士、吉田尚弘(以上次期評議員)

1. 次期(2000～2001年度)幹事会のメンバー構成を資料のとおりで了承(ただし、監事は幹事会メンバーに入らない。正式には2000年度第1回目の評議員会で決める)。出版幹事は今回設けず、GJ編集長が対応し、庶務幹事と会計幹事が補佐する。
2. 学会賞推薦および鳥居基金第1回応募締め切りはいずれも1月末日であるため、2000年度の学会賞等受賞者選考委員会および鳥居基金委員会のメンバーは、今期(1998～1999年度)の評議員会ですでに決まっている。
3. 名誉会員推薦委員会の委員長は副会長が兼務することが明文化されている。委員は2000年度第1回評議員会のときに決める。
4. 将来計画委員会は委員長も含めて2000年度第1回評議員会のときに決める。
5. 評議員会は2月(土曜日)、6月(土曜日)、年會時の年3回。幹事会は評議員会の1週間前の土曜日に行う。場所は、来期も原則として東大山上会館(空いてなければ学生会館)。
6. 2000年度第1回評議員会は2月12日(土)、幹事会は2月5日(土)の予定(中井評議員に会場予約を依頼)。
7. 旅費は、年會以外の評議員会において、出席者に支給する。航空運賃は、実費を自己申告していただき、早割を買う努力をしていただく。別のソースで旅費が出る場合もその旨を申告していただく。

## 第17期日本学術会議海洋科学研究連絡委員会(第6回)議事録

日時：平成11年12月9日(木) 13時30分～16時00分

場所：日本学術会議6階会議室

出席者：田中，有賀，石井，河村，小泉，佐伯，平（啓），竹内，角皆，野崎，花輪，伏見，松山，友定（オブザーバー）（敬称略）

はじめに，田中委員長より体調等の問題のために，長い間委員会活動が滞ったことに対する謝意が表明された。その後，田中委員長の司会により以下の事項について報告および審議が行われた。大要は以下の通り。

## 1．報告事項

### 1) 委員長報告事項

・2000年1月6日に，科学研究費の審査のあり方に関する第4常置委員会主催の会合が各研連委員長出席のもとで行われる。本研連からは，田中委員長が出席する予定。

### 2) 各委員報告事項

・花輪委員から，本研連と海洋物理学研連との共催で，海洋学会春季大会期間中の3月31日に，「21世紀の海洋研究と教育体制」に関するシンポジウムが開催されたこと，前回の会合で承認された「海洋科学研究・教育のための船舶運営機構に関する検討小委員会」の設置が，4月に第1常置委員会に諮られ承認されたことが報告された。

・角皆委員から，10月にインド・ゴアで開催された海洋研究科学委員会（SCOR）第34回執行理事會について，配布資料に基づき詳細な報告があった（審議事項参照）。主たる内容は，ワーキンググループの活動状況，大規模研究プロジェクト，組織・財政等であった。なお，この中でGLOBEC（Global Ocean Ecosystem Dynamics）科学運営委員会委員であるウクライナの研究者が，国家機密を国外に持ち出したとの理由で当局に拘束されており，現在抗議行動を行っている旨，紹介があった。

・平（啓）委員から，POGO（Partnership for Observation of the Global Ocean）設立の会合が米国スクリップス海洋研究所で開催されたこと，オーストラリア・パースに政府間海洋学委員会（IOC）の事務所が設立され，2000年秋にインド洋に関する国際シンポジウムが開催されること，東大海洋研の改組にまつわる概算要求の内容について，それぞれ報告があった。

## 2．審議事項

### 1) SCOR 関係（報告事項参照）

第34回執行理事會における日本の分担金をカテゴリ IV から V へ上げるようにとの要請に従い，学術会議に分担金増額の所定の申請をするとともに，SCOR 委員長から分担金増額に関する要望書を日本に送るよう働きかけることとした。2002年10月に日本で第26回 SCOR 総会を開催することを承認した。これに伴い，今後開催資金の調達に努力すること，日本の活動を紹介するシンポジウムを企画することを申し合わせた。

### 2) 練習船問題（略称）小委員会

委員長に予定されていた故大谷清隆委員の後任問題，今後の活動について議論した。その結果，委員長には河村委員が就任し，大谷委員に代わり北海道大学から桜井泰憲氏を小委員会委員として参加してもらうこととした。この問題をめぐる事態は急速に進行しており，小委員会活動を活発に行って欲しい旨，要請があった。

### 3) 東大海洋研協議会委員の推薦について

東大海洋研所長から依頼のあった標記推薦について検討し，平成12年4月からの協議員として以下の4名を推薦することとした。上眞一氏（広島大学），高橋孝三氏（九州大学），田上英一郎氏（名古屋大学），市川洋氏（鹿児島大学）

### 4) 故大谷委員の後任について

9月に逝去された故大谷清隆委員の後任として，現在オブザーバーとして出席している水産庁中央水産研究所の友定彰海洋生産部長を推薦することとし，所定の手続きを取ることにした。

3) 次回（第7回）は，2000年2月4日（金）13時30分から，日本学術会議で行う。

## 第17期日本学術会議海洋科学研究 連絡委員会（第7回）議事録

日時：平成12年2月4日（金）13時30分～15時45分

場所：日本学術会議6階第5部会議室

出席者：田中，有賀，石井，河村，小泉，杉本，平（朝），平（啓），谷口，角皆，友定，野崎，花輪，伏見，松山（敬称略）

田中委員長の司会により，大要以下の議事がなされた。

1) 前回の議事録（案）を一部字句修正の上，承認し

た。

## 2. 報告事項

### 3) 委員長報告事項

- ・ 学術会議総会へ提出する本研連の活動報告を委員長と花輪幹事が相談の上作成したいとの提案がなされた承された。
- ・ 文部省で設置を予定している「総合環境学研究所」の進捗状況が報告された。平成12年度予算で設立準備調査室（事務官1名、教授2名の増員）が認められ、平成13年度に30名規模で研究所を発足させるよう努力していることなどが紹介された。

### 4) 各委員からの報告

- ・ 花輪委員から、この間行われた（1月7日、同20日）科研費「複合領域」に関連する学術会議の委員会で、本研連が「環境科学（分科）・環境保全（細目）」の関係研連になったことが報告された。なお、本研連は今後も「海洋科学」の分科・細目が新たに設置されるよう、努力すべきとの意見が出された。
- ・ 平（朝）委員から、資料配布の上、OD21の進捗状況が報告された。また、IODP 国内委員会では、建造中の新掘削船の運用体制や研究体制について議論しており、その報告書を準備中であること、これを学術会議の関連する研連に送付するので、各研連でレビューの上、対外報告書を出すなど何らかの対応をして欲しい旨の要望がなされた。
- ・ 平（啓）委員から、東京大学海洋研究所の改組の状況が報告された。6大部門への移行と、海洋環境センター（教授1名純増、助手4名振り替えて助教授1名、助手3名）の新設が、平成12年度予算で認められた。また、一部の部門が、新領域創成科学研究科環境系自然科学コースの協力講座になる概算要求も準備している。
- ・ 角皆委員から、本研連がIOC 分担金カテゴリーの上位シフトを承認したことに、IOC 執行部が感謝していることが紹介された。また、今年度代表派遣の申請ができなかったため、来年度はこのようなことがないようにとの要望が出された。

## 3. 審議事項

「練習船問題（仮称）」に関し、同日午前中に行われた「海洋科学研究・教育のための船舶運営機構

に関する検討小委員会」（河村委員長、松山・花輪幹事）の議論が紹介され、その後活発な意見交換を行った。個々の大学における存続に向けた動きはサポートするが、小委ではむしろ長期的展望に立って提言をまとめるべきであること、省庁再編・国立大学の独立行政法人化の機会が変革の好機であること、教育・研究双方の立場で船舶の必要性を強調すべきであること、ある分野に特化した研究船が望ましいこと、海洋研がこの問題解決に積極的になって欲しいこと、など多様な意見が出された。研連の総意として早急に提言の文書を作成して欲しいとの要望が出され、このため今後小委はできるだけ早く作業を行うこととし、可能であれば次回の研連会合までに、提言のたたき台を準備することとした。

4. 次回（第8回）は、2000年4月3日（月）13時30分から、日本学術会議で行う。

## 日本学術会議第17期第4回惑星科学 専門委員会議事録

開催日時：2000年1月14日（金）14時00分～16時00分

開催場所：日本学術会議第5会議室

出席者：中澤、北村、加藤、坎本

### 0. 配布資料

- ・ 我が国の大学等における研究環境の改善について（勧告）
- ・ 日本学術会議の自己改革について（声明）
- ・ 日本学術会議の位置付けに関する見解（声明）

### 1. 報告等

(1) 以下の通り地球物理学研究連絡委員会関連の報告があった（中澤）。

- a. 2001年 IUGG 大会の札幌開催が7月のバーミンガム大会で決定された。それを受け、大会組織委員会案（組織委員長：上田誠也、幹事：末広潔、事務局はJAMSTEC 内）が提示され、組織委員会を中心にさらに具体化していくこと、今後も地球物理学研連と密接に情報交換を行っていくこと、が確認された。
- b. 日本学術会議131回総会において、日本学術会議の自己改革について議論があり、その集約として「日本学術会議の自己改革について（声明）」、「日本学術会議の位置付けに関する見解（声明）」が採択された。また、「我が

国の大学等における研究環境の改善について（勧告）」も採択され、政府に対して勧告を行った。

- c. 科学研究費の審査方法の変更（審査委員推薦数が従来の2倍になった、等）に伴い、地物分野関連細目の審査員推薦の基本方針に関して議論があったが、従来通りの順番で各学会に依頼することとした。惑星科学分野としてローテーションに加わることも打診されたが、当面従来通りとすることで回答した。但し推薦人数の少なくとも1/3程度は惑星科学を理解できる方が入るよう、関連委員に要請した。

なお、上記報告(1)-cを受けて、惑星科学分野の研究者はどの科研費細目に申請しているのか、との質問があり、後日調査することとした。

- (2) 2001年度地球惑星科学関連学会合同大会についての報告（中澤）

表記大会の組織委員会の引き受け手がないため、表記大会連絡会の下に検討委員会（大谷栄治委員長）が作られ、対処を議論中である。提案されている案として、日本惑星科学会から「a. 運営の業者依頼、b. 参加費の値上げ、c. インターネットを用いた電子媒体の導入、の3つの条件の下で有志による組織委員会を立ち上げる」提案がなされている。対案として日本電磁気・惑星圏学会より「現関連学会の年回を同一時期・同一場所で開催する」提案がある。

## 2. 議題

- (1) 学術会議の改革について

報告事項(1)-bを受けて、学術会議の改革及び地球物理研究連絡委員会の改革について意見交換、検討を行った。

- a. 学術会議の改革について

今回の総会で取り上げられた改革案は、現行法に基づいたものであるためか、思い切った改革案とはなっておらず、現状の改善にとどまっている。日本学術会議の機能拡大と強化に係わる思い切った改革を期待したい。例えば、研究教育に係わる国策規模の評価機能や調査機能を有すること（昨今短期的な成果を求める安直な“評価”が横行しており、この風潮は特に理学にあってはなじまない。本来あるべき評価がな

されることが前提条件となる。）や、積極的に国際会議等開催を積極的にバックアップすること、等が考えられる。

- b. 地物研連の改革について

地球惑星科学が深化する一方で、旧来の分野を超えた‘学際的’研究が活発に進められている。このような地球惑星科学分野の実状にあわせ、また、将来のより一層の発展を促すために、日本学術会議の改革を機に研連組織を抜本的に見直す必要がある。その観点から

- (1) 地物関連研連の統合化（7研連の廃止と専門委員会化）
- (2) 地物研連の枠を超え、地球科学関連研連の統合化
- (3) 地物研連名の変更、例えば地球惑星科学研連
- (4) IUGGに対応した日本側組織創設に向けた準備

等について、種々意見交換があった。その結果上記4項目のうち、(1)と(2)に関しては、次回の地球物理研連に提案することとし、提案書（案）は委員長が起案、各委員・オブザーバーに回覧し、意見を求めた上で荒地地物研連委員長に提出することとした。

- (2) 惑星科学分野の将来計画については、資料不備のため、次回議題に持ち越すこととした。

## 2000年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」 および研究助成候補者の募集

地球化学研究協会より、「三宅賞」および研究助成候補者の推薦依頼がありました。下記のとおり応募して下さい。

### 1. 三宅賞

対象：地球化学に顕著な業績をおさめた科学者

表彰の内容：賞状、副賞として賞金30万円、毎年1件（1名）

応募方法：所定の用紙に必要な事項を書いて下記のあて先へ送付

締切：2000年8月31日

### 2. 研究助成

対象：海外シンポジウムに出席・論文を発表し、または海外の学術研究調査等に参加する地球化学の若手研究者。下記締切日に40歳未満であるこ



と。

助成内容：1件10万円，毎年数件。

応募方法：所定の用紙に略歴，研究業績の他，海外調査などに関しては対象地（国名，地域名），目的・計画，推薦理由，同行者などを記入し，海外のシンポジウム出席については国際会議名（主催団体，開催場所，開催年月日），発表論文題目，推薦理由及び推薦者氏名・肩書きを書いて，下記のあて先へ送付。

締切：2000年8月31日と2001年1月15日の2回

3．応募先：地球化学研究協会

〒166 0022 東京都杉並区高円寺北4 29 2 217

Tel：03 3330 2455（Fax 兼用）

なお賞・助成とも，詳細な応募要領と応募用紙が本学会（庶務幹事）にありますので下記宛にご請求下さい。

坂田 将

〒305 8567 つくば市東1 1 3

工業技術院地質調査所地殻化学部

Tel：0298 61 3720，Fax：0298 61 3533，

E-mail：ssakata@gsj.go.jp

### 2000年度（第27回）日産学術研究助成候補者推薦依頼について（学会推薦）

本年度の標記研究助成に関する推薦依頼は4月末日現在，まだ日本地球化学会に届いていませんが，次号のニュースでは締め切りに間に合なくなる恐れがあり，現在確認されている情報に基づき，以下にご案内申し上げます。

1．推薦枠 これまで学会推薦の対象となる助成は一般研究（40歳前後）と奨励研究（35歳以下）でしたが，今年から一般研究がなくなり，奨励研究のみとなります。また奨励研究の年齢制限は40歳以下に変更となります。一般研究の廃止に伴い，奨励研究の年齢上限を拡大（40歳以下）し，採用予定件数を増加，また平成12年度の奨励研究採択者から研究開始の10ヶ月後に申請を受け，選考により，助成期間延長，助成金追加，共同研究への拡大等の道が用意されます。このほか日産科学振興財団直接受付の，総合研究助成，海外共同研究助成の採用件数が拡大されます。以上のように，一般研究助成廃止に伴う一般研究応募者層への対応がなされる予定です。

2．推薦件数 件数に制限は有りません（原則として

全件推薦）。

3．選考基準 日産科学振興財団では次の基準により審査・選考が行われます。

1）適合性：一般的に公的な助成金を得にくい，若手の独立した研究か。

2）重要性：内容が，独創的，先駆的で学術的意味が大きいか。

3）明確性：研究目的が明確であり，さらに研究計画，体制など十分検討されており，実現性が高いか。

4）期待性：研究者の研究経歴から見て高い成果が期待できるか。あるいは将来の発展が期待できるか。

4．推薦者 本学会の会長より推薦を行います。

5．推薦手続き 所定の推薦用紙を本学会庶務幹事（下記）にご請求いただき，必要事項を記入の上，庶務幹事宛にお送り下さい。7月31日(月)必着。

坂田 将

〒305 8567 つくば市東1 1 3

工業技術院地質調査所地殻化学部

Tel：0298 61 3720，Fax：0298 61 3533，

E-mail：ssakata@gsj.go.jp

6．その他 本年度募集の詳細につきましては，5月上旬に日産科学振興財団のホームページ（<http://www.t3.rim.or.jp/~at02-nsj/>）に公開されるとの情報を得ておりますので，ご参照下さい。

### 2000年度第2回鳥居基金助成の募集について

2000年度第2回鳥居基金助成の応募の締め切りは2000年7月末日となります。本学会ホームページ，及び「地球化学」の会員名簿号に応募要項がありますので，ご参照の上，応募書類を提出して下さい。

提出先：

〒113 8622 東京都文京区本駒込5 16 9

(株)日本学会事務センター内

日本地球化学会鳥居基金委員会

なお本件に関する問い合わせは庶務幹事（下記）まで。

坂田 将

〒305 8567 つくば市東1 1 3

工業技術院地質調査所地殻化学部

Tel：0298 61 3720，Fax：0298 61 3533，

E-mail：ssakata@gsj.go.jp

## 北海道大学大学院地球環境科学研究科の 教官公募のお知らせ

表記公募の案内が参りましたのでお知らせいたします。

本研究科では、さきに「助教授または講師」の募集をしてまいりましたが、適任者の応募が得られませんでしたので、下記の要領により教官の再公募を致します。なお、専門分野、構成員については前回と若干異なっております。

### 記

1. 公募人員：助教授 1 名
2. 所属：地圏環境科学専攻，地球環境変遷学講座
3. 専門分野：地球化学，地質学のいずれかの分野に係わり，地球環境変遷，古海洋環境に関する研究と教育を行う熱意にあふれた方。本研究科大学院学生ばかりでなく理学部地球惑星科学科学生の教育および全学教育にも携わって頂くことがあります。
4. 年齢・国籍：特に問いませんが，35歳以上が望ましい。
5. 提出書類：
  - (1) 履歴書
  - (2) 研究業績リスト（原著論文，総説，その他）
  - (3) 主要論文の別刷またはコピー（5 編）
  - (4) これまでの研究概要と今後の抱負（2,000字以内）
6. 応募期間：平成12年6月30日(金) 必着
7. 着任時期：できるかぎり早い時期
8. 書類送付先：

〒060 0810 札幌市北区北10条西5丁目  
北海道大学大学院地球環境科学研究科  
地圏環境科学専攻 南川雅男 宛  
(応募書類と朱筆し，簡易書留で送付すること)
9. 当該講座教官  
教授：大場忠道 ( $^{18}\text{O}$  と  $^{13}\text{C}$  による古環境復元)  
教授：南川雅男 (有機・同位体地球化学による古環境復元)  
助教授：長谷川四郎 (底生有孔虫による古環境復元)  
助教授：(本公募)  
助手：(別途公募中)
10. 問い合わせ先：

大場忠道  
Tel : 011 706 2233, Fax : 011 706 4867  
oba-tad@ees.hokudai.ac.jp

## 第22回宇宙ステーション利用計画 ワークショップ開催計画

会合名

第22回宇宙ステーション利用計画ワークショップ

開催日時

平成12年6月28日(水) 9時30分～17時00分

6月29日(木) 9時30分～17時30分

6月30日(金) 9時30分～17時10分

開催場所

砂防会館 シェーンバッハ・砂防

(〒102 0093 東京都千代田区平河町2 7 5)

会合の内容：宇宙ステーション利用に関する我が国の推進体制，宇宙環境利用研究の実施状況等について，利用者の理解を深め，利用の拡大を図るとともに，利用者の意見をとりまとめ，今後の宇宙ステーションの利用計画等に反映する。

主催者名：科学技術庁（予定），宇宙開発事業団

協賛・後援団体名：28の学会の協賛（予定）

参加費：無料

詳細問い合わせ先：

(財)宇宙環境利用推進センター

宇宙実験推進部 担当：米ノ野村

〒169 8624 東京都新宿区西早稲田3 30 16

Tel : (03) 5273 2442, Fax : (03) 5273 0705

(参考) 宇宙開発事業団ホームページ：

<http://jem.tksc.nasda.go.jp/utiliz/workshop/index.html>

## 東北大学大学院理学研究科地学専攻 地球物質科学科教官公募のお知らせ

表記公募の案内が参りましたのでお知らせいたします。

### 記

公募職種：教授 1 名

公募分野：資源環境地球化学分野

着任予定：決定後，可能な限り早い時期

提出書類：

- 1) 履歴書（市販用紙使用，署名捺印）
- 2) 研究業績目録（審査付き論文，著書，その他諸報告に区分）
- 3) 主要な原著論文別刷りまたは著書10編（コピー可）およびそれらの説明（各論文・著書につき400字程度）

- 4) 教育研究活動の概要(書式自由, 2,000字程度)
- 5) 教育研究活動の記録(内外の学会活動, 受賞歴, 各種研究費受領歴, 非常勤講師歴, 公的機関の委員歴, その他教育研究活動として参考になる事項)
- 6) 今後の教育・研究の計画・抱負(2,000字程度)
- 応募締め切り: 2000年10月31日(火) 必着
- 封筒の表に「教官応募書類在中」朱書きし, 簡易書留にて郵送すること。

書類の送付及び問い合わせ先:

〒980 8578 仙台市青葉区荒巻字青葉  
 東北大学大学院理学研究科地学専攻 大谷栄治  
 Tel: 022 217 6662 (ダイヤルイン)  
 Fax: 022 217 6675  
 E-mail: ohtani@mail.cc.tohoku.ac.jp  
 教室のホームページ:  
<http://www.ganko.tohoku.ac.jp>

### 熊本大学理学部地球科学科 教官公募のお知らせ

表記公募の案内が参りましたのでお知らせいたします。

#### 記

- 職名・人員: 教授 2名
- 所属講座: (1)地球変遷学講座  
(2)地球物質科学講座
- 応募資格:
  - 大学院博士課程で微化石層位学あるいは海洋環境特論を担当出来る方。
  - 地球物質科学を専門とされる方で, 特に火山学・火山地質学分野の方を希望します。  
(1), (2)とも, 学位(博士)を有し, 大学院博士課程での研究指導が出来る方で, 野外地質調査を通じての教育・研究が可能な方が望ましい。
- 着任時期((1), (2)とも): 決定後なるべく早い時期を希望します(遅くとも平成13年4月まで)。
- 提出書類((1), (2)とも):
  - 履歴書(頭に「地球変遷学講座応募」あるいは「地球物質科学講座応募」と記して下さい。E-mail addressのある場合は連絡先として明記して下さい。)
  - 業績リスト(論文については査読の有無を区別して下さい)
  - これまでの研究経過(1,000字以内)及び今後の

教育・研究計画(1,000字以内)

- (4)応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先
- (5)主要論文の別刷またはコピー(5編)
6. 公募締め切り((1), (2)とも): 平成12年7月31日(月) 必着
7. 書類提出先:  
 〒860 8555 熊本市黒髪2丁目39-1  
 熊本大学理学部地球科学科 学科長 嶋田 純 宛  
 Tel: 096 342 3411 (教室事務)  
 096 342 3419 (嶋田研究室)  
 Fax: 096 342 3411  
 E-mail: jshimada@sci.kumamoto-u.ac.jp
8. 応募上の注意: 書類は封筒に「地球変遷学講座教官応募」あるいは「地球物質科学講座教官応募」と朱書きし, 簡易書留で郵送して下さい。

(参考)

熊本大学理学部地球科学科は2大講座からなり, 4月1日現在, 下記のような人員構成になっています。本公募による教官は, 採用後大学院自然科学研究科(博士前期・後期課程)を併任していただくことになります。

・地球物質科学講座

渋谷秀敏(教授: 古地磁気学)  
 西山忠男(教授: 岩石学)  
 磯部博志(助教授: 鉱物学)  
 横瀬久芳(助手: 地球化学・岩石学)

・地球変遷学講座

岩崎泰類(教授: 古生物学)  
 尾田太良(教授: 微古生物学・古海洋学)  
 嶋田 純(教授/学科長: 水文学)  
 長谷義隆(助教授: 層位学・古生物学)  
 松田博貴(助教授: 堆積岩石学)  
 秋元和實(講師: 微古生物学・古海洋学)  
 豊原富士夫(講師: 構造地質学)  
 木元(徐)学東(助手: 微古生物学・古海洋学)

講師以上の地球科学科教官は大学院自然科学研究科を併任しています。

地球科学科兼任教官

- 大学院自然科学研究科  
 本座栄一(教授/大学院専任: 海洋地学・テクトニクス)

**東京大学大学院理学系研究科  
地球惑星科学専攻地球生命圏科学  
講座教官の公募について**

表記公募の案内が参りましたのでお知らせいたします。

記

1. 職種・人員：教授または助教授 1名
2. 所属講座：地球生命圏科学講座
3. 専攻分野：生命圏物質科学分野
4. 応募資格：学位（博士）を有し、大学院博士前期・後期課程での研究指導を担当できる方
5. 着任時期：決定後なるべく早い時期
6. 提出書類
  - (1)履歴書
  - (2)業績目録（査読の有無を記した原著論文，著書，総説，報告書に分けて記載すること）
  - (3)これまでの研究経過（2,000字程度）

- (4)主要論文5編の別刷またはコピー
- (5)自薦の場合は，今後の研究・教育計画・抱負（2,000字程度）
- (6)応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先

7. 公募締め切り：平成12年7月31日(月) 必着  
封筒の表に「地球生命圏講座教官応募」と朱書きし，簡易書留にて郵送すること。

書類の提出先および問い合わせ先

〒113 0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院理学系研究科

地球惑星科学専攻 専攻長 松浦充宏 宛

Tel : 03 5841 4318 (ダイヤル・イン)

E-mail : matsuura@eps.s.u-tokyo.ac.jp

付記：東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻の概要および生命圏物質科学分野の詳細についてはホームページ (<http://www.eps.s.u-tokyo.ac.jp>) をご覧下さい。

### ニュースへ記事やご意見をお寄せください

皆様の情報・原稿をお待ちしています。地球化学に関連した研究集会、シンポジウムの案内、人材募集、書評、研究機関の紹介など何でも結構です。編集の都合上、電子メール、フロッピー（マックもしくはDos/Vいずれでも結構です）での原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしく願いいたします。次号の発行は2000年8月上旬頃を予定しています。ニュース原稿は7月下旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

#### 編集担当者

中井俊一

〒113 0032 東京都文京区弥生1 1 1

東京大学地震研究所

Tel : 03 5841 5698 , Fax : 03 5802 3391 ,

E-mail : snakai@eri.u-tokyo.ac.jp

鍵 裕之

〒113 0033 東京都文京区本郷7 3 1

東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設

# 2000年度日本地球化学会講演申込

2000年6月30日（金）必着

受付番号：

講演題目 （和文）  （英文）
発表者氏名 講演者に○印、所属が複数の場合は最後に（ ）でくくった番号を付ける。 （漢字）  （ひらがな）  （英文）例：K.Saito
発表者所属 複数の場合は所属の前に（ ）でくくった番号をつける。 （和文）  （英文）
講演抄録 和文で150～180文字程度
キーワード 10文字以内の日本語、最大5個まで。言葉どうしは・で区切る。

希望の□に×を記入してください。[ ]内に希望事項を記入してください。

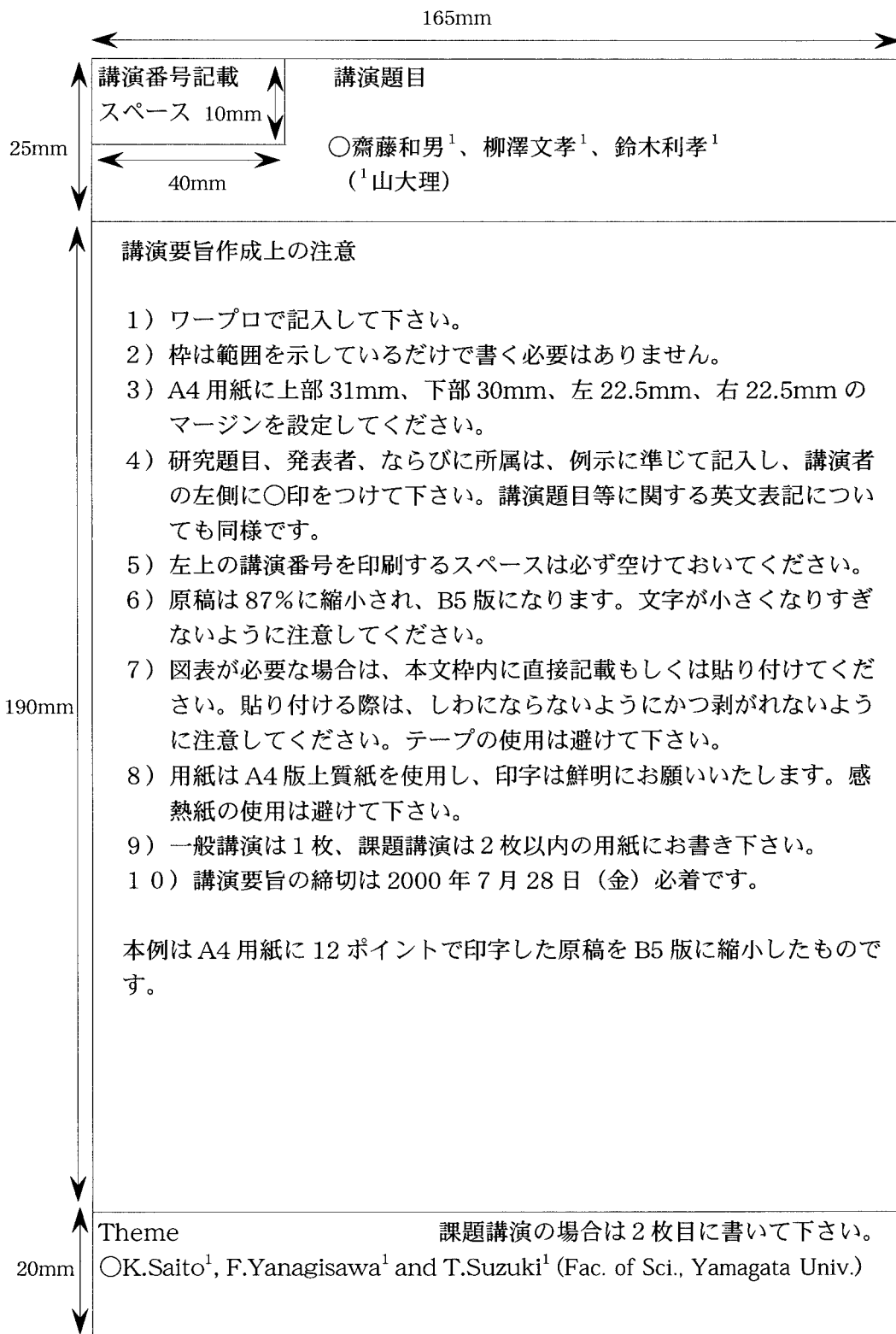
課題講演 <input type="checkbox"/> 課題1 <input type="checkbox"/> 課題2 <input type="checkbox"/> 課題3 <input type="checkbox"/> 課題4 （課題1, 2, 4は招待講演のみ、課題3は招待講演と公募）
一般講演 <input type="checkbox"/> 口頭発表 <input type="checkbox"/> ポスター発表 <input type="checkbox"/> どちらでも良い
発表分野（一般講演のみ） <input type="checkbox"/> 大気・降水 <input type="checkbox"/> 岩石・地殻 <input type="checkbox"/> 鉱床 <input type="checkbox"/> 有機物 <input type="checkbox"/> 生物 <input type="checkbox"/> 陸水 <input type="checkbox"/> 温泉 <input type="checkbox"/> 熱水 <input type="checkbox"/> 地球外物質 <input type="checkbox"/> 海洋 <input type="checkbox"/> 堆積物 <input type="checkbox"/> 火山 <input type="checkbox"/> 環境問題 <input type="checkbox"/> その他 [ ]
OHP（1台）以外の機材の希望 [ ]

申込者連絡先

氏名	E-mail
住所 〒	
TEL：	FAX：

準備委員会使用欄（記入しないでください）

講演日時	講演番号
------	------



165mm

講演番号記載

スペース 10mm

講演題目

25mm

40mm

○齋藤和男<sup>1</sup>、柳澤文孝<sup>1</sup>、鈴木利孝<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>山大理)

講演要旨作成上の注意

- 1) ワードプロで記入して下さい。
- 2) 枠は範囲を示しているだけで書く必要はありません。
- 3) A4用紙に上部31mm、下部30mm、左22.5mm、右22.5mmのマージンを設定してください。
- 4) 研究題目、発表者、ならびに所属は、例示に準じて記入し、講演者の左側に○印をつけて下さい。講演題目等に関する英文表記についても同様です。
- 5) 左上の講演番号を印刷するスペースは必ず空けておいてください。
- 6) 原稿は87%に縮小され、B5版になります。文字が小さくなりすぎないように注意してください。
- 7) 図表が必要な場合は、本文枠内に直接記載もしくは貼り付けてください。貼り付ける際は、しわにならないようにかつ剥がれないように注意してください。テープの使用は避けて下さい。
- 8) 用紙はA4版上質紙を使用し、印字は鮮明にお願いいたします。感熱紙の使用は避けて下さい。
- 9) 一般講演は1枚、課題講演は2枚以内の用紙にお書き下さい。
- 10) 講演要旨の締切は2000年7月28日(金)必着です。

190mm

本例はA4用紙に12ポイントで印字した原稿をB5版に縮小したものです。

Theme

課題講演の場合は2枚目に書いて下さい。

20mm

OK.Saito<sup>1</sup>, F.Yanagisawa<sup>1</sup> and T.Suzuki<sup>1</sup> (Fac. of Sci., Yamagata Univ.)

## 2000年度日本地球化学会参加申込

2000年9月1日（金）必着

受付番号：

ふりがな	
氏名	
所属	
連絡先	<input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> 自宅
住所 〒	
TEL：	FAX：
E-mail	

登録内容（該当するに×を記入して下さい）

講演	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 不参加
参加資格	<input type="checkbox"/> 会員（1000円） <input type="checkbox"/> 学生会員（無料） <input type="checkbox"/> 非会員（2000円）
要旨集	<input type="checkbox"/> 要（4000円送料込） <input type="checkbox"/> 不要
懇親会	<input type="checkbox"/> 一般（5000円） <input type="checkbox"/> 学生（3000円） <input type="checkbox"/> 不参加
送金合計	円
送金日	月 日
送金先	山形銀行山形駅前支店 普通口座 0799726 加入者名：東急観光（株）山形支店

要旨集送付先（必ず記入して下さい）

〒

様



## 2000年度、日本地球化学会年会 宿泊のご案内

謹啓 皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
 この度、貴学会が平成12年9月25日(月)～9月27日(水)の3日間、紅花のさと山形県山形市(山形大学小白川キャンパス)で開催されますことを、心より歓迎申し上げます。  
 さて、学会にご参加の皆様のご宿泊について、当社がご斡旋させていただくことになりましたので、下記によりご案内申し上げます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

東急観光株式会社 山形支店長

### 記

#### 1. ご宿泊のご案内

(1) 宿泊日 平成12年9月24日(日)～9月26日(火) 3泊

(2) 宿泊ホテル名及び宿泊代金(1泊朝食付、サービス料、消費税 込)

※お一人様宿泊料金です

区分	ホテル名	部屋タイプ	宿泊代金	申込記号	会場まで
S1	山形グランドホテル	シングル	11,000	S1-S	徒歩 13分
		ツイン	9,700	S1-T	
S2	ホテルキャッスル	シングル	11,000	S2-S	徒歩 15分
		ツイン	9,700	S2-T	
A1	山形ワシントンホテル	シングル	9,000	A1-S	徒歩15分
A2	オーヌマホテル	シングル	9,000	A2-S	徒歩 4分
		ツイン	8,000	A2-T	
B	ホテルマクスィン山形	シングル	8,300	B-S	徒歩 15分
		ツイン	7,900	B-T	
C	ホテル山形	シングル	7,300	C-S	徒歩25分

※ご希望のホテルが満室の場合は、他のホテルに振替させていただきますので、予めご了承願います。

※9月27日(水)ご宿泊の場合は、別途お手配致しますのでご連絡願います。

#### 2. お申込み方法について

- (1) 別紙、申込書にご記入の上、FAXにてお申込み願います。
- (2) 宿泊代金は、該当のホテル代金に旅行取扱料金(通信料見合いとして)500円加算した額を銀行振込みにてお願い申し上げます。
- (3) お申込みの締切り日 : 平成12年8月31日(木)
- (4) 宿泊代金の納入期限 : 平成12年9月14日(木)

振込先口座名

銀行名：山形しあわせ銀行 山形駅前支店 口座NO：(普)164765 口座名：東急観光(株)山形支店 (同封の振込依頼書をご利用下さい)
---

- (5) お申込み受領後、宿泊予約券及び回答・請求書を送付させていただきます。

## 2000年度、日本地球化学会年会宿泊申込書

※お申込みはFAXをご利用下さい。

FAX: 023-641-1019 担当: 相馬 宛

代表者氏名 (フリガナ)	宿泊券送付先の住所 (勤務先・自宅)		
申込者:	〒 -	都道府県	
連絡先: ( ) -			
FAX: ( ) -	勤務先名:		
返金時振込口座名 (必ずご記入下さい)	銀行名:	口座NO:	
	支店名:	口座名:	

NO	(フリガナ) 氏名	性別	宿 泊 日			同室者名 (ツイン利用時)
			9/24	9/25	9/26	
例	ヤマガタ タロウ 山形 太郎	男				
1						
2						
3						
4						
5						

(注) (1) ツインルームご利用の場合は、同室者名をご記入下さい。  
 (2) 本申込書は、必ずコピーをとり、学会終了まで保管願います。  
 ※宿泊ホテルの取消料について

宿泊日の9日前か2日前までの取消は	宿泊料金 (1泊目) の	10%
= 前日	=	20%
= 当日	=	80%

※上記についてのお問い合わせは 東急観光(株)山形支店 〒990-0039  
 山形市香澄町1-11-22 「日本地球化学会係」  
 TEL: (023)641-4141 FAX: (023)641-1019  
 担当者: 相馬 一・山口 謙一